

説教題：「その名をイエスと名づけなさい。イエスはその民を罪から救われるからである。」

マタイの福音書 1章 18 - 25 節

18 イエス・キリストの誕生は次のようにあった。その母マリアはヨセフの妻と決まっていたが、ふたりがまだいっしょにならぬうちに、聖霊によって身重になったことがわかった。19 夫のヨセフは正しい人であって、彼女をさらし者にはしたくなかったので、内密に去らせようと決めた。20 彼がこのことを思い巡らしていたとき、主の使いが夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ。恐れないであなたの妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。21 マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」22 このすべての出来事は、主の預言者を通して言わされた事が成就するためであった。23 「見よ、処女がみごもっている。そして男の子を生む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」（訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である。）24 ヨセフは眠りからさめ、主の使いに命じられたとおりにして、その妻を迎え入れ、25 そして、子どもが生まれるまで彼女を知ることがなく、その子どもの名をイエスとつけた。

ルカの福音書 2章 8 - 11 節

8 さて、この土地に、羊飼いたちが、野宿で夜番をしながら羊の群れを見守っていた。9 すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が回りを照らしたので、彼らはひどく恐れた。10 御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。11 きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。

皆さん、おはようございます。今日皆さんにお会いできてうれしいです。私たちはアドベントの季節の終わりに近づいています。この季節は、クリスマスとイエス・キリストの誕生を祝うことの楽しみにする時期です。

先ほどの聖書朗読で、私たちはキリスト誕生の話を聞きました。そして、天使が夢の中でヨセフに現れ、こう告げたという話を読みました。マタイ 1：21-「21 マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」

今日の私の説教のタイトルは、この聖句からとったのですが、この聖句は少し短くしてあります。説教題：その名をイエスと名づけなさい。イエスはその民を罪から救われるからである。

この「イエス」という名前は、「エホバが救う」あるいは「ヤハウェが救う」という意味です。思い起こせば、"Yahweh"は旧約聖書における神の名前（YHWHの文字から）であり、英語ではこの名前を "Jehovah"と表記することが多いです。「イエス」

という名前は「エホバは救う」という意味であり、イエスが地上に来られた第一の使命、すなわち主の救いをその民にもたらすことを物語っています。

ルカの福音書2章10節から11節で、天使が羊飼いたちに言ったことを見てみましょう - 「10 御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。11 きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。」すべての人々にとって大きな喜び。救い主がお生まれになりました：主キリスト。

今日のメッセージでは、この4つのポイントを取り上げます。

1. 背景：キリストの系図
2. 受肉：神が人となられた
3. 使命：キリストの民を罪から救うこと
4. ベツレヘムでの誕生

パート1. 背景：キリストの系図

マタイによる福音書は4つの福音書の中で最もユダヤ的です。マタイはイエスをユダヤ人の王として、来るべきメシアに関するさまざまな預言を成就させたお方として紹介しようとしています。この福音書は系図から始まります。

系図はユダヤ人にとって重要であり、マタイはイエスがヘブライ人の父アブラハムの子孫であり、ダビデ王の子孫であることを示したいのです。預言的な約束に従って、ユダヤ人はダビデの子孫であるメシアの王を期待していました。

この福音の冒頭を読んでみましょう。マタイ1:1-6 - 「1 アブラハムの子孫、ダビデの子孫、イエス・キリストの系図。2 アブラハムにイサクが生まれ、イサクにヤコブが生まれ、ヤコブにユダとその兄弟たちが生まれ、3 ユダに、タマルによってパレスとザラが生まれ、パレスにエスロンが生まれ、エスロンにアラムが生まれ、4 アラムにアミナダブが生まれ、アミナダブにナアソンが生まれ、ナアソンにサルモンが生まれ、5 サルモンに、ラハブによってボアズが生まれ、ボアズに、ルツによってオベデが生まれ、オベデにエッサイが生まれ、6 エッサイにダビデ王が生まれた。ダビデに、ウリヤの妻によってソロモンが生まれ…、」

この系図を全部読むつもりはありません。しかし、この系図の最初の部分には見慣れた名前が並んでいます：アブラハム、イサク、ヤコブです。ヤコブには12人の息子があり、ダビデ王は、四番目の子であるユダの子孫である。ほかにもおなじみの名前がいくつかあります。興味深いのは、女性の名前もあることです。普通、系図といえば、男性

とその息子たちのことですが、たまには女性の名前も出てくることがあります。この系図では4人の女性の名前が挙げられています。そのほとんどが、あるいは全員がユダヤ人ではない。タマル、ラハブ、そしてウリヤの妻、バテシバです。このことは、私たちの欠点や罪にもかかわらず、神はしばしば恵み深い方であることを示しています。また、メシアの血筋に異邦人がいることも示しています。以前にもお伝えしたことがあります
が、神はユダヤ人だけでなく、異邦人も愛してくださいます。

この系図の最後にこのようにあります。マタイ1:15-17 - 「15 エリウデにエレアザルが生まれ、エレアザルにマタンが生まれ、マタンにヤコブが生まれ、16 ヤコブにマリヤの夫ヨセフが生まれた。キリストと呼ばれるイエスはこのマリヤからお生まれになった。17 それで、アブラハムからダビデまでの代が全部で十四代、ダビデからバビロン移住までが十四代、バビロン移住からキリストまでが十四代になる。」

7歳のとき、初めて聖書をもらいました。その直後に私がしたことのひとつは、聖書を開いて新約聖書の一番最初のところを読むことでした。私は初めてこれらの言葉を読みました。そして、アブラハムからイエスに至る血統が3つのセクションに分けられ、それが14世代に及ぶということを、とてもクールだと思いました。14は7を2倍にした数字です。何年も経ってから、私は、14という数字がこの時代のユダヤ人作家たちにとって特別な数字であったことを知りました。

最近、マタイによる「14」という数字の用法について興味深いことを知ったので紹介したいです。この時代のユダヤ人は、ヘブライ語の文字に数値を割り当て、単語の文字の数値を合計すると特別な意味が浮き彫りになるという、ゲマトリアと呼ばれる方法を実践していました。ダビデ王の名前の文字を見ると、興味深いことが浮き彫りになります。ヘブライ語でダビデという名前の子音(תַּדְ)を足すと14になります。ダビデの名前の最初と最後の文字はダリット(ת)と呼ばれ、ヘブライ語のアルファベットの4番目の文字で、数値は4である。真ん中の文字はヴァヴ(またはワウ)(ו)と呼ばれ、アルファベットの6番目の文字で、数値は6です。つまり、 $4+6+4=14$ である。マタイは、3組14代というアウトラインを強調するとき、ダビデとのつながりを強調しているようです。これは、ユダヤ人の聴衆がこの系図を読んだときに気づいたことでしょう。これはマタイが、イエスとダビデ王とのつながりを強調する方法です。

さて、これはなかなか興味深い情報だと思ったので、今日、皆さんにお伝えしました。マタイは、イエスがダビデの子孫が国を治めるというメシア預言の成就者であることを強調しています。

パート2に移りましょう：神が人となられた

マタイ1:18を読みましょう - 「イエス・キリストの誕生は次のようにあった。その母マリアはヨセフの妻と決まっていたが、ふたりがまだいっしょにならぬうちに、聖霊によって身重になったことがわかった。」

彼女は聖霊によって子を宿していることがわかりました。これは奇跡的な受胎です。彼女はヨセフや他の男性によって妊娠させられたのではありません。彼女は聖霊によって身ごもったのです。

マタイの聴衆はおそらくこの話をすでに知っているので、どうしてこのようなことが起こったのか、これ以上詳しくは語りません。しかし、ルカは語ります。

ルカ1:26-38を読みましょう - 「26 ところで、その六か月目に、御使いガブリエルが、神から遣わされてガリラヤのナザレという町のひとりの処女のところに来た。27 この処女は、ダビデの家系のヨセフという人のいいなずけで、名をマリヤといった。28 御使いは、入って来ると、マリヤに言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたとともにおられます。」29 しかし、マリヤはこのことばに、ひどくとまどって、これはいったい何のあいさつかと考え込んだ。30 すると御使いが言った。「こわがることはない。マリヤ。あなたは神から恵みを受けたのです。31 ご覧なさい。あなたはみごもって、男の子を産みます。名をイエスとつけなさい。32 その子はすぐれた者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また、神である主は彼にその父ダビデの王位をお与えになります。33 彼はとこしえにヤコブの家を治め、その国は終わることがあります。」34 そこで、マリヤは御使いに言った。「どうしてそのようなことになりえましょう。私はまだ男の人を知りませんのに。」35 御使いは答えて言った。「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる者は、聖なる者、神の子と呼ばれます。36 ご覧なさい。あなたの親類のエリサベツも、あの年になって男の子を宿しています。不妊の女といわれていた人なのに、今はもう六か月です。37 神にとって不可能なことは一つもありません。」38 マリヤは言った。「ほんとうに、私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおりこの身になりますように。」こうして御使いは彼女から去って行った。」

マリヤはイエスを受け入れた最初の人です……なぜなら、彼女はこの子を産むという神の御心を謙虚に受け入れたからだ、と言われてきました。その子はイエスと名付けられ、父ダビデの王座に君臨します。35節には、マタイによる福音書1章18節にあるように、聖霊が彼女の上に臨むとき、彼女は懷妊すると書かれています。

これは奇跡的な誕生です。処女懐胎であることが重要なのです。イエスはこの誕生によって人間の肉体を持ち、人として生まれます。しかし、他のすべての人間が持つて生まれてくる罪の性質を持ちません。これが、私たちが神の子が受肉した呼んでいるものです。

覚えているでしょうか、エデンの園でアダムとエバは禁じられていた果実を食べて罪を犯しました。神はアダムに、この一つのルールを破れば死ぬと警告されましたが、アダムはそれを実行し、その結果死が訪れました。

ローマ 5:12 を読みましょう - 「そういうわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界にはいり、罪によって死がはいり、こうして死が全人類に広がったのと同様に、——それというのも全人類が罪を犯したからです。」

アダムの罪のせいで、罪と死が全人類に広がりました。しかし、神はこの問題に対する解決策を持っています。御子イエス・キリストを遣わし、十字架上の死によってこの罪の罰を受けさせられたのです。イエスは完全な人間として生まれましたが、罪の性質を持っていませんでした。

ローマ 5:17 - 「もしひとり（アダム）の人の違反により、ひとりによって死が支配するようになったとすれば、なおさらのこと、恵みと義の賜物とを豊かに受けている人々は、ひとりの人イエス・キリストにより、いのちにあって支配するのです。」

神の恵みを受け、キリストに信仰を置く者は、義と永遠の命の賜物を受けます。

これがパート 3 につながります。その使命とは、主の民を罪から救うことです。

このようなわけで、神は地上に来られました。 1 ヨハネ 3:5 - 「キリストが現われたのは罪を取り除くためであったことを、あなたがたは知っています。キリストには何の罪もありません。」

1 ペテロ 3:18 - 「キリストも一度罪のために死なれました。正しい方が悪い人々の身代わりとなったのです。それは、肉においては死に渡され、靈においては生かされて、私たちを神のみもとに導くためでした。」

ローマ 5:8-9 - 「しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。9 ですから、今すでにキリストの血によって義と認められた私たちが、彼によって

神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。

旧約聖書の制度では、罪の贖いのために動物が生け贅として捧げられました。これらの動物には肉体に傷がないことが条件でした。しかし、この制度は一時的なものであり、新約聖書は、この制度は私たちの罪を取り除く長期的な効果はないと言っています。そのためには、絶対的に完全ないけにえが必要です。

旧約聖書のシステムについて、ヘブル人への手紙 10 章 3-4 節はこう述べています-
「ところがかえって、これらのささげ物によって、罪が年ごとに思い出されるのです。
4 雄牛とやぎの血は、罪を除くことができません。」

イエスは、罪を取り除く完全ないけにえです。ヘブル 10:10-12 - 「このみこころに従って、イエス・キリストのからだが、ただ一度だけささげられたことにより、私たちは聖なるものとされているのです。11 また、すべて祭司は毎日立って礼拝の務めをなし、同じいけにえをくり返しささげますが、それらは決して罪を除き去ることができません。12 しかし、キリストは、罪のために一つの永遠のいけにえをささげて後、神の右の座に着き、」

14 節 - 「キリストは聖なるものとされる人々を、一つのささげ物によって、永遠に全うされたのです。」

これが神との和解をもたらす贖罪のいけにえです。そして、キリストがこの世に来られた目的である創造主との関係の回復です。

2 コリント 5:17-21 - 「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。18 これらのことはすべて、神から出ているのです。神は、キリストによって、私たちをご自分と和解させ、また和解の務めを私たちに与えてくださいました。19 すなわち、神は、キリストにあって、この世をご自分と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで、和解のことばを私たちにゆだねられたのです。20 こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです。ちょうど神が私たちを通して懇願しておられるようです。私たちは、キリストに代わって、あなたがたに願います。神の和解を受け入れなさい。21 神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方にあって、神の義となるためです。」

キリストに信仰を置くとき、私たちは新しく造られた者となります。神と和解したのです。そして、私たちクリスチヤンは、あなたも私も、今、和解の務めを与えられています。このメッセージを地の果てまで伝え、創造主との正しい関係を回復する方法について

ての良い知らせを人々に伝えるのです。20節によれば、私たちは大使です。私たちはキリストの使者なのです。和解の務めをもたらすために。神と和解すること、つまり縦の関係と、互いに和解すること、つまり横の関係です。

パート4 - ベツレヘムでのイエスの誕生

ルカ 2:4-14 - 「ヨセフもガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。彼は、ダビデの家系であり血筋でもあったので、5 身重になっているいいなずけの妻マリヤもいっしょに登録するためであった。6 ところが、彼らがそこにいる間に、マリヤは月が満ちて、7 男子の初子を産んだ。それで、布にくるんで、飼葉おけに寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。8 さて、この土地に、羊飼いたちが、野宿で夜番をしながら羊の群れを見守っていた。9 すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が回りを照らしたので、彼らはひどく恐れた。10 御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。11 きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。12 あなたがたは、布にくるまって飼葉おけに寝ておられるみどりごを見つけます。これが、あなたがたのためのしるしです。」13すると、たちまち、その御使いといっしょに、多くの天の軍勢が現われて、神を賛美して言った。14 「いと高き所に、栄光が、神にあるように。地の上に、平和が、御心にかなう人々にあるように。」

14節については、キング・ジームズ訳の表現の方が馴染みがあります：“いと高きところには神の栄光を、地には平和を、人には善意がありますように”

地上の平和、すべての人に対する善意。

この言葉は、数分前に読んだコリントの信徒への手紙第二章の和解の務めを思い出させる。イエスがこの世に来られた目的は、人と神との間に和解をもたらすためです。私たちはキリストの使者であり、この世界に和解のメッセージを伝える。

クリスマスを祝うにあたり、この季節が単なる誕生のお祝い以上のものであることを忘れないようにしましょう。それは、人々をその罪から救う救い主の到来を祝うものです。そして、その救い主は人々に一つの使命を与えました。それは、この救いと和解の良い知らせを世界中のすべての人々に届けることです。そして、出会うすべての人にこの平和と善意の良い知らせを分かち合うことです。

メリークリスマス。神の祝福を。